

2021 年度 (令和 3 年度)

学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番 25	福山市立	大津野小	学校
最終更新日			2022年(令和4年)2月1日		

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する。 毎月OPTの取組の成果がよくわかり、質の向上を期待しています。 学力向上及び体力の向上の取組はよくわかります。家庭や地域へ情報発信を期待しています。 業務改善により時間を生み出してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の役に立とうとする気持ちが育成されつつある。 自尊心は伸びてきたが、主体的に行動する力は弱い。 基礎的な内容は定着してきているが、思考力・表現力が弱い。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びに向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情を高める取組をする。(年3回アンケート実施) 「ワーク・ライフ・バランス」を意識した働き方を進める。

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
見えない「人間の根っこ(学問・社会性)」を育てる	めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
学校教育目標		3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力		5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
現状	教科等	国語科・特別活動				
<p>〈児童生徒〉</p> <p>○学級力や自尊感情が高まり、考えて行動できる児童が増えてきた。 ○遊び等を通した運動量の確保をし、楽しみながら体力向上が図れるようになってきた。 △素直でまじめに行うことができるようになってきたが、自分で判断して主体的に行動できる力はまだ弱い。</p> <p>〈授業〉</p> <p>○教科領域等の関連を図り、児童の疑問ややってみようゴールを大切に単元づくりを通して、児童の学習に対する意欲が高まってきた。 ○「わかる」「楽しい」と思える授業づくりができるようになってきた。 △目的を明確にした協働的な学びが不十分である。 △学びが面白いと思える授業はできるようになってきているが、学力の定着に課題がある。指導と評価の一体化が必要である。</p>	研究	主題・内容等	関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～			
	めざす授業の姿	児童が関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業 <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が「わかった」「できた」「学びが面白い」と実感できる授業 自ら課題を発見し、協働的に学び、学びに連続性のある授業 				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力の向上と「見直し」と「振り返り」のある主体的な学びの創造【課】 【思】	教科・領域をつないだ単元づくりをする。	国語科・算数科の授業は「よくわかる」「学びが面白い」質問項目に対する肯定的評価80%以上にする。 【児童アンケート】	□児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」98%「学びが面白い」95%。達成率100%以上。 □タブレット端末を活用して、分かりやすい資料の提示や単元づくりを行った。	4	4	・単元のねらいや目的を明確にして、タブレット端末のより効果的な活用をし、教科・領域をつなぐ単元づくりを工夫する。 ・児童に「見直し」を持たせ、「振り返り」を書かせたり、交流させたりする。	□児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」97%「学びが面白い」93%。 ◎学習前に「見直し」をもたせ、学習後に「振り返り」を行うことで主体的な学びに繋がった。達成率100%以上。	5	4	4	・単元のねらいや目的を明確にして単元づくりをする。また、児童の様子を交流することでカリキュラムマップの効果的な活用を目指し、基礎学力の向上につなげていく。 ・児童に「振り返り」を書かせたり、交流させたりする時間を十分確保することで主体的な学びにつなげる。
					児童の課題を分析し、改善を図る。ドリルタイムの実施やタブレットを効果的に活用していく。	単元テスト(国語科「思考・判断・表現」、算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。 【単元テスト】	□単元テスト(国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年6%、中学年4.7%、高学年4.1%。算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童は、低学年7.9%、中学年6.9%、高学年7.8%。学校全体の達成率66.6%。 □全国学力・学習状況調査の分析で、児童のつまずきを把握し、授業改善に取り組んだ。	3	3	・主体的に学び続ける授業づくり取組シートを継続して行う。 ・タブレットドリルを活用し、繰り返し技能の問題に取り組ませる。 ・学力アップデーなどを活用し、活用問題に取り組ませる。	□単元テスト(国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年3.4%、中学年1.8%、高学年5.0%。算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童は、低学年5.3%、中学年5.8%、高学年13.3%。 ◎児童のつまずきを把握し、授業モデルを提示し、授業改善に取り組んだ。学校全体の達成率83.3%。	4	3	3	・主体的に学び続ける授業づくり取組シートの交流を行い、協同の学びを仕組むことで主体性を育む。 ・タブレットドリルを活用し、繰り返し技能の問題に取り組ませたり、答え方を教えたりする。 ・ドリルタイムや、学力アップデーなどを活用し、活用問題に継続して取り組ませる。
1	主体性・積極性の育成	★	継続	自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】 【主】	月1回OPT(大津野プロジェクトタイム)を実施し、つけたい力を掲示する。代表委員会等を活用し、異学年でつけたい力等を交流する時間を設定する。	学級力リーダーチャートにおける「目標達成力」を86%以上にする。【毎月のリーダーチャート】	□学級力リーダーチャートにおける「目標達成力」82.3%(17学級中13学級達成)。 □OPTを実施し、つけたい力を掲示、17学級中17学級が達成、100%。	3	3	・目標達成力が低い理由を分析し、子どもたちと共有しながら改善に向けて取り組む。 ・学級力の課題について交流できる場の設定をすることで取り組みを深めさせる。	□学級力リーダーチャートにおける「目標達成力」100%(17学級中17学級達成)。 □OPTを実施し、つけたい力を掲示、17学級中17学級が達成、100%。 ◎OPTについて全教員と児童が共通認識の下、取り組むことで児童が主体的に活動することができた。また、学級・学校をよりよくしようとする児童が増えてきた。達成率100%以上。	4	5	5	・感染症の対策のため集会を行うことができない場合でもMeet等を活用し、異学年での交流を行っていく。 ・学級の目標達成力の達成率を分析し、子どもたちと課題を共有しながら改善に向けて取り組む。 ・学級力の課題について交流できる場の設定をすることで取り組みをさらに深めさせる。
1	たくましい体の育成		継続	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】 【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、体育授業の改善に取り組む。	新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体力テスト】	□82項目中41項目が達成し、達成した種目率は49.9%。 □測定方法やポイントについて職員研修をして取組への意識を高めた。	3	2	・体育の授業の導入で、課題がある種目の強化月間を取り入れ、走力や敏捷性等を高める。 ・カリキュラムマップに各学年ごとの課題を明記し、授業の中で継続して取り組む。	□82項目中48項目が達成し、達成した種目率は58.5%。 □課題がある種目の強化月間を取り入れたことで、再テストの平均値が上がり、来年度の新体力テストにつなげることができた。達成率90%。	4	2	3	・カリキュラムマップに各学年の課題を明記し、授業の中で継続して取り組むことで走力や敏捷性等を高める。 ・体育の授業の導入や家庭学習等で、課題がある種目の強化月間を継続して取り入れる。

2	教職員の元気	★	見直し	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見直しを持って職務を遂行する。夏季・冬季休業中に会議等のない日を設定する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。	□時間外勤務は毎月全職員45時間以内を達成することができた。 □年休は平均4.1日取得で昨年より2日分多い。	3	3	・今後も問題行動等に対して組織的に対応することにより、担任が業務や児童と向き合う時間を確保する。 ・勤務時間の管理や年休取得を計画的に行えるように指導・助言を行う。	□時間外勤務は4月から1月まで全職員45時間以内を達成することができた。 □年休は1月の時点で平均6.7日取得できている。達成率100%以上	4	5	5	・今後も在校45時間以内を意識した業務改善の推進を行ったり、計画的な年休の取得を行ったりすることでワークライフバランスをとり、仕事に意欲的に取り組めるようにしていく。
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	年2回以上地域の人と関わる授業をつくる。	「大津野が好き」といえる児童を86%以上にする。【児童アンケート】	□「大津野が好き」といえる児童、学校平均98.6%（17学級中17学級が達成100%） □年2回以上地域の人と触れ合う授業をつくる、16.6%（6学年中1学年が達成）	3	3	・カリキュラムマップで1年間を見通して、地域の人とふれあう授業を効果的に配置する。また、CMデーを活用し、随時見直しを行っていく。	□「大津野が好き」といえる児童、学校平均99%（17学級中17学級が達成100%） □年2回以上地域の人と触れ合う授業をつくる、33%（6学年中2学年が達成） ◎地域に愛着をもち、地域貢献をしようとする児童が増えてきている。達成率100%以上	4	3	4	・カリキュラムマップで、地域の人とふれあう授業を効果的に配置する。感染症の状況を注視しながら、今後もCMデーを活用し、随時カリキュラムマップを見直ししながら地域の人と触れ合う授業の実施の可能性を探っていく。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

Z

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。